

# 「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」

## にぎわいづくりと活用について

(中間報告)

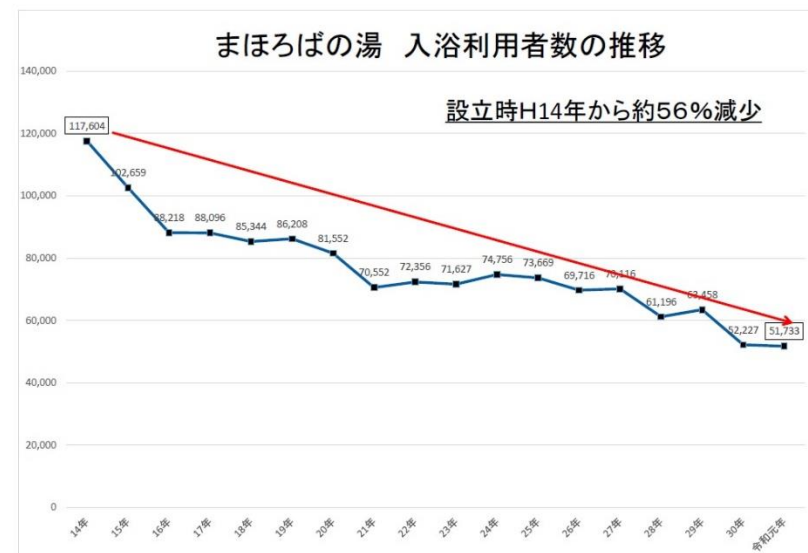
= にぎわいづくりと私たちのまちづくり =

令和3年3月25日 「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」再構築検討委員会

# 目 次

1	はじめに	・・・ 3
2	構想の再構築をするにあたりエリアの設定	・・・ 4
3	「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」の現状と課題、めざす姿	・・・ 5
4	一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園を取り巻く資源	・・・ 6
5	一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園のエリアに求められる役割	・・・ 9
6	考えられる「ターゲット像」と「具体的な活動内容」など	・・・ 11
7	最終報告書作成に向けて	・・・ 13
【資料】		
1	「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」再構築検討委員会名簿	・・・ 15
2	開催状況	・・・ 15

# 1 はじめに



一宮温泉まほろばの湯は、平成 14 年度開業時、利用者 117,604 人を記録以降、令和元年度利用者 51,733 人と開業時の約56%減少となりました。そして、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 4 月 18 日休業となり、同年 6 月まほろばの湯の指定管理者の事業撤退が決定しました。そして、次の指定管理者が決まるまで同施設は休業となりました。

指定管理者の事業撤退を受け、市では、まほろばの湯の円滑な管理と効率的な運営、そして公園一帯を一宮北部地域の地域づくりの拠点として位置づけ、活用を促進するため、令和 2 年 9 月、まほろばの湯・家原遺跡公園一帯として、新たな指定管理者（令和 3 年度～令和 7 年度の期間）を公募しましたが、その応募はありませんでした。

家原遺跡公園は、文化財の保護と活用、一宮北部まちづくりの中核となり、それを確かなものとするため、地下泉源を活かしたまほろ

ばの湯が開設されました。しかしながら、まほろばの湯が休業状態のなか、公園一帯がどうなれば、まちづくりの拠点となるのか、私たち地域住民はどのような公園を求めているか、この機会に見つめ直すため、まほろばの湯・家原遺跡公園の全体構想の再構築に取り組むことになりました。

構想の再構築は、一宮町北部の地域活性化を図るため、住民が繋がって元気に活躍をできるまちを創ることを目的に組織された一宮北部まちづくり委員会で行い、その検討作業は、北部まちづくり委員会が依頼した、各地域選出の検討委員 7 名により行っています。委員 7 名は、地域の中から外からの視点、男女及び年代層の幅、仕事やまちづくりへの熱意など考慮の上選出の委員であり、令和 3 年 7 月、構想の再構築（案）策定に向けて取り組んでいるところです。

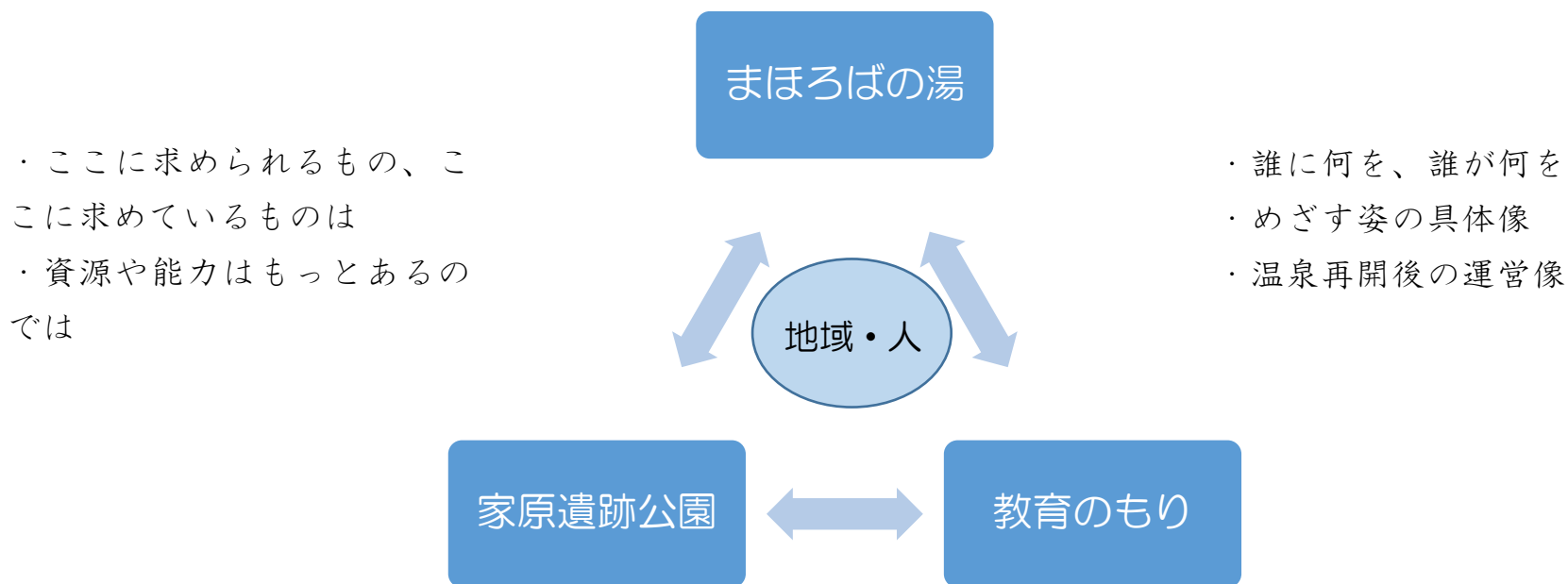
今回、再構築委員会活動の折り返し（全 9 回委員会予定のうち 5 回開催）にあたり、中間報告をいたします。

## 2 構想の再構築をするにあたりエリアの設定

今回、構想再構築するエリアは主として、宍粟市遺跡公園条例で設置する「家原遺跡公園」、宍粟市一宮温泉施設条例で設置する「一宮温泉まほろばの湯」、宍粟市家原教育のもり公園条例で設置する「家原教育のもり公園」、そして、家原遺跡公園隣接の「カブトムシドーム」及びドーム隣接の市有地とします。

### 3 「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」の現状と課題、めざす姿

第1回、第2回委員会では、事務局並びに委員提供の資料、アドバイザーの先進事例の紹介を受け、各委員の思いや考え方について意見交換しました。そして、めざす姿は「豊かな自然と歴史、優れた泉質に一宮北部の地域力を加味した拠点づくり」と位置づけを行ったうえで、「現状と課題、めざす姿」については、まほろばの湯、家原遺跡公園、教育のもりは、それぞれ関連性があり、そこには地域や人の関わりが重要であり、今後、その視点で協議を続けていくと確認しました。



めざす姿は「豊かな自然と歴史、優れた泉質に一宮北部の地域力を加味した拠点づくり」

#### 4 一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園を取り巻く資源

第1回、第2回委員会における、めざす姿の位置づけをもとに、第3回委員会以降は、今後めざしていく姿や、温泉や公園が果たしていく役割の具体像について検討することにしました。シート「公園・温泉の良いところ、自慢できること」「地域のひと・もの・こと」「少し足りないこと、追い風になりそうなこと」を用いて、委員7人はA班、B班に分かれて、互いに意見を出し合いながら、一宮北部地域の魅力の再点検を行いました。(ワークショップ形式)





再点検の結果、A班B班ともに魅力としてあげているものも多くある一方で、片方の班だけが魅力としてあげているが、「なるほど！」と感じるものもあり、興味深い結果となりました。

この再点検作業を通して、一宮北部の魅力を改めて再確認できたことで、今後めざしていく姿や役割の全体像が見えてきました。そして、意見交換した班別の個々の意見は、表にて整理を行い今後の検討に役立てることにしました。

◇A班B班の共通の魅力のほんの一例

まほろばの湯・家原遺跡が共に魅力とするもの	⇒⇒ 高台にある、景観が良い、隠れ家的 カブトムシドームがある、展望台がある
まほろばの湯の魅力	⇒⇒ 泉質がいい、さらったお湯、アトピーに良い 湯室が豊張り、家族風呂がある、温泉スタンドがある
家原遺跡公園の魅力	⇒⇒ 四季折々の花が咲く、芝生広場がある、雑木や木の実もいっぱい 工房エリアの雰囲気がいい、広々している
地域の魅力的なひと	⇒⇒ 野菜づくり、花作りが好きな人が多い、農産加工品づくりの人やグループがある 漢方茶ブレンダーがいる、元気な高齢者がいる
地域の魅力的なもの	⇒⇒ 名水・天然水が豊富、山菜が採れる、季節の旬のものがおいしい、繁盛米がある 甘酒やバジルの加工品がある、鮎・ヒラベがおいしい
魅力的なこと	⇒⇒ 神社、寺院が多い、伝承・ストーリー性がある、祭りが多い



## 5 一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園のエリアに求められる役割

第4回委員会では、一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園のエリアに求められる役割について協議しました。

協議は、第3回委員会（良いところ、自慢できるところ）、第4回委員会前半（今ひとつなこと、一方で追い風になること）のグループ討議をもとに、このエリアに求められる役割は何か、また市民（又は来訪者）にとって、どのようなところであることが望ましいか協議しました。

市民ニーズ × 資源

⇒ どんな場所

来訪者ニーズ × 資源

⇒ どんな場所

総合すると、このエリアはどのようなところといえるのかイメージしました

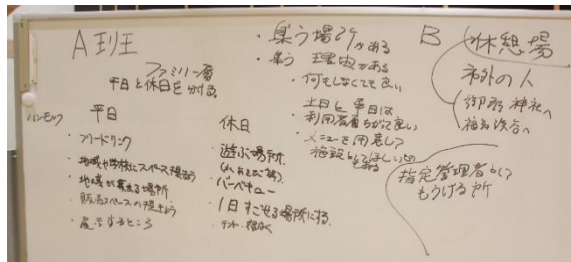


## エリアに求められるイメージ（地域又は来訪者にとって）

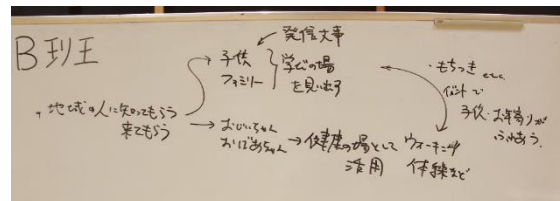
エリアに求められるイメージや役割を協議の結果、地域又は来訪者にとって次の2つにおおむね集約されました。

**（地域にとって）**  
**みんなが、わははうふふと笑って、**  
**「わいわい集まる」場所**

**（来訪者にとって）**  
**古代の村で「わくわく」、まほろば**  
**の湯で「ほっこり、ゆったり」できる**  
**場所**



（A班B別の発表内容）



- 地域の人が集まる（利用する）場所になる。（主に市民）
- 土日はファミリー向けに「体験」を中心に、1日遊べる、休憩できる。（主に来訪者）
- 平日は地域の人向けをメインとして利用する。（主に市民）
- 休日の「1日遊べる場所」となる。（主に市民）
- イベントを実施できる場所として「集える場所」になる。（主に市民）
- 遊んで食べて休憩して温泉に入って、1日、過ごせる場所（1日居ることができる場所）になる。（主に市民）
- グラウンドゴルフ、ウォーキングやランニングコースの設営、温泉の休憩室でヨガ教室の開催など、健康の場として情報発信の場となる。（主に市民）
- 子ども向けの学びの場として環境を創り、展示活動も併せて行い、子どもを通じて親へエリア、施設情報を発信する。（主に市民）
- 指定管理者にとって、エリアがその役割が果たすようになれば、このエリアに魅力を感じるようになる。

## 6 考えられる「ターゲット像」と「具体的な活動内容」など

第4回、第5回委員会を通して、このエリアがめざしたい姿に対する「ターゲット像」について、また、このエリアでの「具体的な活動内容」について、今まで協議してきたこのエリアに求められる役割やイメージをもとに検討しました。

### 「ターゲット像」

一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園のエリアは、まほろばの湯、遺跡公園、カブトムシドーム、家原教育のもり公園は、健康増進、歴史文化、アウトドアなど、それぞれ施設にあった楽しみ方があり、市内市外の両方から利用されています。

**まほろばの湯・家原遺跡公園の役割やイメージをもとに考えられる「ターゲット像」については、市民又は来訪者によって異なるとも考えられ、第6回以降、さらに議論を進めます。**



### 【具体的な活動内容】

各施設とも、観光をキーワードに設置された施設で、いずれも開設当初は目新しさもあり、また、まほろばの湯開業（平成14年度）以降に、西播磨管内に競合する施設（温泉温浴施設）が開業したこともあり、入園者利用者は年々減少となっています。

まほろばの湯・家原遺跡公園が、新しい指定管理者から運営の応募を得るには、まほろばの湯・家原遺跡公園に新たな付加価値が付き、今まで以上に魅力あるものになる必要があります。

魅力の向上は、今までの協議で整理してきた、まほろばの湯・家原遺跡公園の良いところ、地域（ひと・もの・こと）の良いところを

単独でとらえるのではなく、掛け合わせによって、新たな魅力づくりや付加価値となるものがないか協議、意見交換を行いました。

○第4回委員会終了時のまとめ（A班、B班のグループ討議における共通点）

- 地域のニーズに資源を掛け合わせ魅力を高めることが大事だ。
- 市内の人に来てもらうには、まほろばの湯の施設を使ってもらうことだ。
- 市外の人には、一宮北部の観光のハブ（中心）施設としてファミリー層で遊べる場所、休憩ができる場所にもっとなる必要がある。
- 1日でも半日でも利用できる場所になればいい。
- めざすは、遊んで食べて休憩してお風呂に入って1日過ごせる場所（1日居ることができる場所）になることだ。
- 土日はファミリー向け、平日は地元（主に高齢者）と考えてもいい。
- 指定管理者にとって魅力を感じる話（つまり儲けがあること）も考えないといけない。

※A班、B班のグループ討議で、単独で計上された興味深い項目

- 子ども向けに学びの場としての環境を創り、子どもを通じて大人（保護者、関係者）に情報を発信していく。
- 健康づくりの場として、自治会や老人クラブや団体を通じて、ウォーキング、ヨガ、グラウンドゴルフの場としてもっと利用してもらう。
- 地域で公民館や学校でやっていることを、まほろばの湯の施設でってもらう。
- 平日には、施設側で飲み物（フリードリンク付き）を付けて集まってもらうというのはどうか。
- 水遊び、足遊び（足湯など）ができるところがあればいい。

第4回委員会における「具体的活動内容」の検討作業を通して、一宮北部の魅力を改めて再確認するとともに、今後めざしていく姿や役割について、各委員共有することができました。

## 7 最終報告書作成に向けて

令和3年7月に予定する最終報告書作成に向け、委員会では、今後、「ターゲット像」をいかに引き込むか、また「具体的な活動内容」についてさらに協議を進めるとともに、周辺施設との連携イメージを高めていきます。

また、エリアに行き現場や現物を見ながら意見交換（委員会）も行い、ハード面の改修イメージについて委員で共有し、令和3年度以降の計画・進行案と運営体制について協議を進めていきます。

そして、引き続き必要な情報は関係機関からの提供を受け、可能な限り分析をすすめるとともに、望ましい運営体制の協議をすすめ、このエリアがより魅力的なものになる最終報告書を作成していきます。

### ○委員会の開催スケジュール

令和2年度（5回開催）

回数	日付	内容
第1回	1/28（木）	委員長・副委員長の選任、当該エリアの利用状況、意見交換 など
第2回	2/10（木）	市・北部地区の観光動向、先行事例の紹介、現状と課題・めざす姿について など
第3回	2/25（木）	まほろば・家原の自慢できるところ良いところ、魅力的なのひと・もの・ことについて、追い風になること等 など
第4回	3/11（木）	求められるイメージ、ターゲット像・具体的活動内容、まほろばの湯・家原の良いところ×地域（ひと・もの・こと）の良いところ など
第5回	3/25（木）	求められるイメージ、ターゲット像・具体的活動内容、中間報告に向けた意見交換・承認 など
	3/29（月）	中間報告書提出（一宮北部まちづくり委員会正副会長会）

令和3年度（4回開催予定）

回数	日付（予定）	内容（予定）
第6回	4/7（水）	中間報告のイメージが現場に合致するか確認、ハード面の改修イメージ
第7回	5/13（木）	中間報告のイメージが現場に合致するか確認、ハード面の改修イメージ、今後のスケジュールと運営体制
第8回	5/27（木）	最終報告（案）に関する議論、その他必要な追加議論、最終報告書（案）に向けた意見交換
第9回	6/10（木）	最終報告書（案）に関する議論と承認
	6/30（水）	最終報告書提出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習及び一宮北部地区を取り巻く現状分析</li> <li>・まほろばの湯・家原遺跡公園エリアが持つべき役割</li> <li>・考えられるターゲット像と周辺施設等との連携イメージ</li> <li>・ハード面の改修イメージ</li> <li>・望ましい運営体制</li> <li>・今後のスケジュール</li> </ul>
	7月	一宮北部まちづくり委員会において最終報告書（案）の説明

○今後の具体的な協議

前半の委員会（第1回から第5回）は、ソフト面の協議を中心に行ってきました。後半（第6回から第9回最終予定）は、ハード面の協議を行いながら、公園×地域によるにぎわいづくり、まちづくりについて協議を進めます。

（ハード面の検討で例えば考えられるもの）

- ・「まほろばの湯」の湯量確保について
- ・魅力ある「まほろばの湯」の施設について

- ・カブトムシドーム横の市有地の活用について
- ・まほろばの湯・家原遺跡公園と地域の関わりについて

## 【資料】

### 1 「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園」再構築検討委員会名簿（敬称略、地区順、あいうえお順）

氏名	職業等
委員長 飯田 聡	下三方地区在住。市商工会に勤務。2019年第8回経営支援事例発表全国大会に県代表で出場。最優秀賞を得る。
委員 植木 政夫	下三方地区在住。石材店の経営者。地元むらづくりグループや市消防団で活躍。石板と胸板と心意気が厚い。
委員 細川 小百合	下三方地区在住。ご夫婦で園芸店を経営。地元加工品グループに属し、一宮北部で「あおぞらマーケット」も主催。
副委員長 進藤 恭児	三方地区在住。農業者。サラリーマン定年後、農業に取組みただいま青虫と格闘中。数字にも明るい。
委員 田路 友宏	三方地区在住。かぶとむし・クワガタの養殖販売所を経営。見て、触って、遊べる「かぶと虫ドーム」は大好評。
委員 小鹿 由加里	繁盛地区在住。元地域おこし協力隊。協力隊卒業後も、村と村人とお米に愛着を感じ、いろいろ体験発信中。
委員 山口 洋介	繁盛地区在住。地域おこし協力隊。ご夫婦で地元旧園舎で漢方茶をブレンドし販売中。

## 2 開催状況

### (1) 第1回委員会

日時 令和3年1月28日（木） 18時30分から

場所 いちのびあホール

出席者 委員7名（飯田、細川、植木、進藤、田路、山口、小鹿）

穴粟市 一宮市民局（局長、まちづくり推進課）、産業部

アドバイザー ㈱さとゆめ（東京、長野ほか複数拠点からリモート参加）

(2) 第2回委員会

日 時 令和3年2月10日(水) 18時30分から

場 所 いちのびあホール

出席者 委員7名(飯田、細川、植木、進藤、田路、山口、小鹿)

穴粟市 一宮市民局(局長、まちづくり推進課)、産業部

アドバイザー ㈱さとゆめ(東京、長野ほか複数拠点からリモート参加)

(3) 第3回委員会

日 時 令和3年2月25日(木) 18時30分から

場 所 いちのびあホール

出席者 委員7名(飯田、細川、植木、進藤、田路、山口、小鹿)

穴粟市 一宮市民局(局長、まちづくり推進課)、産業部

アドバイザー ㈱さとゆめ(東京、長野ほか複数拠点からリモート参加)

(4) 第4回委員会

日 時 令和3年3月11日(木) 19時00分から

場 所 いちのびあホール

出席者 委員6名(飯田、細川、植木、進藤、田路、山口)

穴粟市 一宮市民局(局長、まちづくり推進課)、産業部

アドバイザー ㈱さとゆめ(東京、長野ほか複数拠点からリモート参加)



(5) 第5回委員会

日 時 令和3年3月25日(木) 19時00分から

場 所 いちのびあホール

出席者 委員7名(飯田、細川、植木、進藤、田路、山口、小鹿)

穴粟市 一宮市民局(局長、まちづくり推進課)、産業部

アドバイザー 株さとゆめ(東京からリモート参加)